

2017年9月1日

ウィスコンシン大学植物病理学科より オーレリー・ラコトンドラファラ博士が来学

本学の相内大吾研究室では、昨年度よりウィスコンシン大学マディソン校・植物病理学科のラコトンドラファラ博士と、バレイショの植物ウイルス検出技術に関する共同研究を進めています。今回の招聘中に博士が確立した植物ウイルスの等温遺伝子増幅法の技術移転を行い、それをウイルス媒介昆虫からの検出技術へと応用することを目指しました。これまでに等温遺伝子増幅法により媒介昆虫体内の植物ウイルスを検出することに成功し、今後はよりその感度を高めるための最適化を進めていきます。

さらに、本学滞在中に学部・大学院生に対する特別講義を開催し、本場アメリカのアクティブラーニングをふんだんに取り入れた講義を学生に体験してもらうことができました。また、特別セミナーでは、教員・学生を対象に植物ウイルスのタンパク質合成メカニズムに関するこれまでの博士の研究成果と、私達の共同研究に関する講演を実施しました。



等温遺伝子増幅法の実験風景



アクティブラーニングを取り入れた特別講義